地域を写真で切り取る

ー「くらべる天白」の取り組みー

武市久美*

１．はじめに

筆者のゼミでは、継続して地域を題材にしたビジュアルコンテンツの制作に取り組んでいる。[1] 本稿では、2019、2020年度に筆者のゼミが制作した名古屋市天白区の写真集「くらべる天白」の取り組みについて報告する。

ゼミでは３年の春学期にさまざまなビジュアルコンテンツを視聴し、表現技法やメッセージの分析を行う。春学期の学びののち、ゼミ全体で制作に取り組むコンテンツについて学生たちのアイデアを募る中で、「‘ご当地もの’の制作に取り組みたい。」という声があがった。学生たちにとっての共通のふるさとは名古屋市天白区[2]である。大学の学びのまとめとして‘ご当地’天白区を題材にして、地域に役立ててもらえるようなコンテンツの制作に取り組み、天白区に恩返しをしたいという意見にまとまった。

‘ご当地もの’として学生たちがイメージするものは、地方自治体がそれぞれの地域の魅力を広報するために作った数十秒から数分程度のPR動画である。2015年ごろから制作本数が増え始め、年間500本あまりが制作されているという。[3] YouTubeなどのSNSを中心媒体として広く公開され、個性的でユニークな動画の中には爆発的な再生回数を誇るものもある。このように地域の外に向けて発信する‘ご当地もの’の目的は、地域の観光スポットやグルメ、文化を魅力あるものとして伝え、移住者の促進や観光に導こうとすることである。一方で、今回のコンテンツは地域内部の人々に向けたものとする。歴史や文化が蓄積された地域資源を掘り起こし、共有し、表現するという行為を通じた学生たちの学びについて考察する。

２．取り組み

２－１．参加者

2019年度専門演習Ⅰ・Ⅱ、2020年度専門演習Ⅲ・Ⅳを履修した学生９名（男性３名、女性６名）。

２－２．制作

２－２－１．立案（2019年９月～）

まず、天白区の‘ご当地もの’について自由に意見を出しあったところ「良い場所、面白いところを紹介したい。」「区の魅力を伝えたい。」という漠然とした意見しか出ず、学生たちは区のことをほとんど知らない状況であった。そこで、天白区のことを一から学ぶために、ゼミ学生全員で天白区役所区政部地域力推進室を訪問した。天白区に関する資料をお借りするとともに意見交換を行ない[4]、2015年２月に区制40周年を迎えた記念事業として、写真展「むかし、いま、天白」を開催したことを教えていただいた。写真展では、区民から広く提供された昭和30年代から50年代を中心とする歴史ある写真を元に作成した「天白区写真パネル」を展示したという。そのパネルはデータ化されており、必要があればゼミで活用させて

* 東海学園大学人文学部

いただけるとのご厚意をいただいた。

その後ゼミで、お借りした区の資料を読み込み、文献・インターネットで情報収集を行い、コンテンツの目的・内容・ターゲット・どの媒体で表現するのが適切か、などの議論に多く時間を多く割いた。本学の学生が多く出演しフラッシュモブで区の各所を紹介するPR動画はどうか、地域住民にご協力いただき子ども・若者・ママ・お年寄りなど多様な年代の区民レポーターが名所・史跡を回る紹介番組はどうか、区の名産の農作物を用いた料理冊子を作成し動画を埋め込んではどうか、など様々な意見が出た。何度も話し合いを重ね、天白区の地域住民に、今までの区の成長を知ってもらうだけでなく今後の区の将来についても楽しみに感じてもらうことを目的としたコンテンツを制作することを決定した。広い年代の人にコンテンツを楽しんでもらえるように、文章の多い「読み物」ではなく、視覚に訴えかけ、見た人が自由にイメージやエピソードを膨らませられるような「写真集」にすることにした。区役所で教えていただいた貴重な写真パネルのデータを活用して、写真に捉えられた昔の天白区の場所（旧写真）が現在どのような姿になっているのか（新写真）、一目でわかる写真集として、タイトルを「くらべる天白」とした。

写真1　意見を出し合う

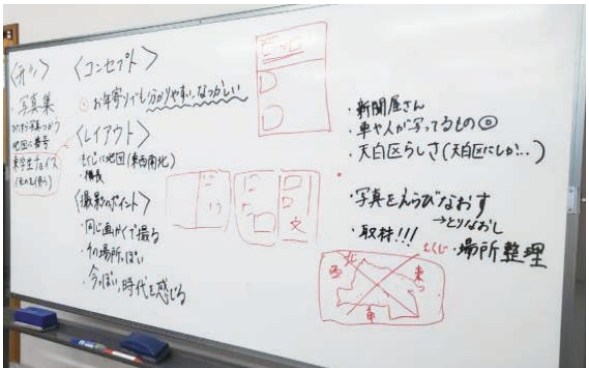


写真2　案をホワイトボードにまとめて共有する

２－２－２．旧写真の選定（2019年10月～）

まず、区役所の方から使用許可をいただいた写真データ[5]を確認した。写真は約180枚あった。すべてのものを写真集に掲載することは難しいため、利用する写真を選ぶ必要があった。そこで、どのような写真があるのか約180枚すべてを把握するためにデータ化された写真を印刷した。写真のサイズが大きいと写真同士を比較しづらいため、ハガキ程度のサイズに印刷してカードにし、床に写真を並べて全体を一覧で見られるようにした。

続いて写真を整理した。まずは取り上げる写真が特定のエリアだけに固まらないよう学区ごとにまとめたり、駅・史跡・風景・建物などジャンル別に仕分けたり、住民にとってなじみのある場所や施設を中心に取り上げるなど、様々な切り口で整理を試みた。いったん整理したものを確認すると、同じ風景や場所を異なる角度や異なる年代で撮影し、同一写真ととらえられるものも多かった。しかし、よりよい写真を取り上げるために、なるべく多めに新写真を撮影してその後再選定することとし、いったん80枚ほどの写真を候補として扱うことにした。

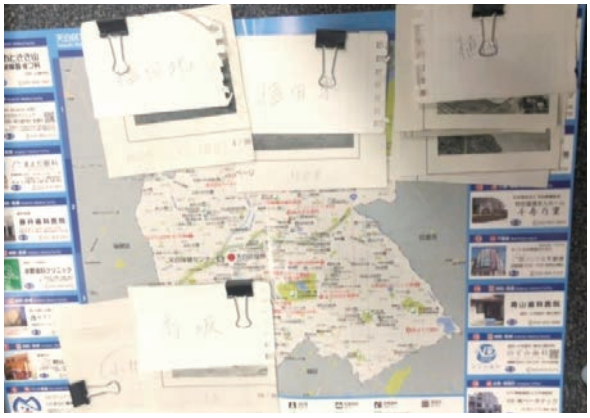


写真3　区のパンフレットで撮影場所の確認をする

写真4　写真を学区ごとにまとめる

２－２－３．撮影準備（2019年11月～）

候補とした旧写真の場所の現在の姿を撮影するために、撮影した場所を確認する作業を行った。写真データにおおよその場所や施設名などタイトルが記載されていたが、地名が確認できないものや、現在は取り壊されたり移転した施設など場所の特定が難しいものがあった。

それらの場所を特定するため、まずインターネットで検索して目印となるものがないか探したが、多くの情報を得ることが難しく、天白区図書館（写真５）や区役所（写真６）に直接出向いて情報収集を行なった。戦前の地図や地形図と照らし合わせて、丘陵や川との位置関係を確認して現在の場所を特定したり、写真に写っている農作物を古地図の地図記号で確認した後、現在の地図で同じ作物が作られているところを探し、重ね合わせて場所を判断するなどした。

取り上げる写真すべての場所の確認を終えた後、効率よく撮影できるよう地図にルートを書き込んで準備を行った。

写真5　天白図書館

写真6　天白区役所

２－２－４．新写真撮影（2019年11月～）

続いて、新写真の撮影を行った。撮影機材は共通して学生が所有しているiPhoneのカメラを使用した。（写真７，８）グループごとに分担して撮影を行ったため、写真の構図がバラバラでまとまりのない写真集にならないよう、旧写真と同じ画角・サイズで撮ることを徹底した。写真集のテーマである「くらべる」視点がわかりやすくなるようにした。事前の準備で具体的な場所が明確ではない写真もあったため、現場で撮影位置を探すのに時間がかかったり、季節の変化、天候、日差しの明るさなどで写真の印象が変わってしまうことがあった。肖像権や著作権を考えて人や看板が映らないようにするなど撮影するまでは気づかなかった注意点が多くあった。

撮影で訪れた際に、旧写真に写っていたお店の方に古地図を貸していただいたり正確な場所を教えていただくなど地域住民の協力もいただいた。

写真7　撮影1

写真8　撮影2

２－２－５．新写真の確認・選定（2019年12月～）

撮影後、新写真を確認したところ、風景写真が多く含まれると写真集全体があっさりしすぎているように感じるなど課題も多くみつかった。動きのある写真や人の営みを感じる写真を再選定するなど、バリエーションに富み見ごたえのある写真集になることを意識し、最終的に新旧およそ40対の写真を取り上げることとした。

当初の企画では、新旧の写真を並べて比較する写真ページのみで写真集を構成する予定だったが、撮影や取材先で、多くの地域住民にお声掛けいただき、その場所に関して様々なエピソードを教えていただいた。そこで、いくつかの場所については、文章も加えて詳しく紹介するコラムページとして構成し、写真集の内容に深みを持たせることにした。

２－２－６．ページ作成（2020年1月～）

撮影した写真を用いてMicrosoft wordを使いページを作成した。写真とコラムページそれぞれのプロットを作り、グループで分担した写真を各々当てはめてページ構成を統一した。コラムページの作成と修正に特に時間を要した。ゼミの中に天白区在住の学生がおらず、生活している中で自然に体得する土地勘や見聞きしたり経験する区の行事やイベントの経験がない。そのため、文章を作成する上での視野が狭かったり、基本的知識が薄かったりして、コラムページの内容がなかなか膨らまず苦労した。しかし、学生同士で何度も文章を推敲し合い、もう一度それぞれの場所を訪れ地域住民に直接話を伺ったり、図書館で詳しく歴史を調べ直したりするなどして、徐々に内容を充実させることができた。詳細があいまいな部分については、区役所に問い合わせて年号や地名の正確な読み方、建物の移転・建て替えの事実など細かい点を最終確認した。

さらに、表紙のデザインや巻頭言、おわりの挨拶など写真集として体裁を整えるためのページ作成を行った。表紙のレイアウトは内側の写真ページでは採用されなかったものを含め、写真をコラージュのように並べ、なるべく多く掲載するようにした。

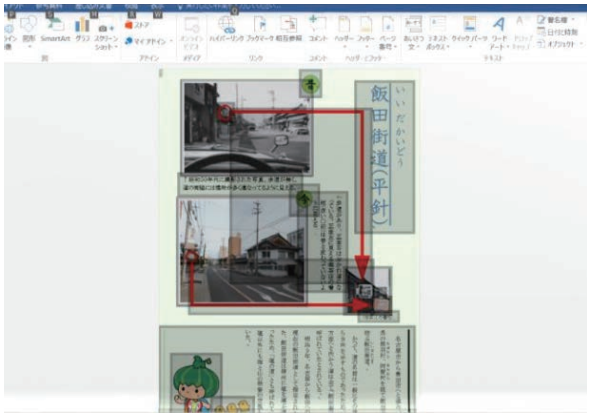


写真9　コラムページのレイアウト

写真10　文章を推敲する

写真11　コラムページの編集

２－２－７．再撮影（2020年９月～）

いったんページ全体を作成したが、写真の画角がずれていたり色合いが異なっていたりして見栄えがよくなく、写真集に掲載するのに適切ではない写真が見受けられたため、再度写真撮影を行った。１回目に撮った写真の中で画質がよくないものがあったため、２回目の撮影ではiPhoneではなく一眼レフを使用した。さらに、「くらべる」視点を重視して、新旧の写真を全く同じ画角で撮影すると、表現したい場所が伝わりにくくなるものもあった。そこで、あえて画角を合わせずに看板など名称のわかるものを入れ込んで撮影することで、見る人にわかりやすくするなどの修正を行った。

写真12　新旧写真の画各をそろえる

写真13　場所の名称を入れ込んで撮影する

２－２－８．試し刷り・最終調整・完成（2020年12月～）

再撮影した写真を差し込んでページを修正し、完成したデータを使用して印刷業者で写真集の試し刷りを行った。制作したページのデザインそのままの形で冊子に仕上がるため、注意を払い何度もデータを調整した。試し刷りではあるが、実際に写真集が手元に届くとPCの画面上でデータで見ていたのとが印象が全く変わりとても見栄えよく仕上がっていた。しかし、全員で何度も回し読みをしてチェックをしたところ、文字の誤植、書体のイメージ違い、写真・文字・記号の大きさが気になる、スペースに違和感がある、ページ構成など多くの問題点が見つかり、修正を行った。念のため試し刷りは２回行った。

完成した冊子はご協力いただいた天白区役所区政部地域力推進室にお届けした。

写真14　冊子完成、納品

写真15　完成した写真集を天白区役所に届ける

３．成果

取り組みを通じて学んだことについて学生たちがレポートにまとめた。以下抜粋する。

・最初はなんとなくやっていてもできるかなという感じだったけれど、天白区のことがわからないと全く進まないことがわかった。
・制作する上でコンセプトや目的などの基盤が固まっていなければ、ゴールに辿りくまでに道に迷うと思った。
・下調べがとても重要で、情報の引き出しがどれくらいあるかが成果物のクオリティに影響を及ぼすことを痛感した。
・ネットの情報は意外と狭い。人に会って教えてもらう情報のありがたさを感じた。
・文章の内容だけでなく、字体や大きさ、記号まですべてが冊子の雰囲気に影響する。本や雑誌を制作する大変さがわかった。
・これでいいやという判断がとても危険だということがわかった。納得するまで何度も見直すべきである。
・ひとりでどうにもならないときに、みんなに相談して助けてもらった。仲間がいてとても助かった。
・コロナで制作が止まりどうなるかと思ったけれど、その分完成したときの喜びはひとしおだった。あきらめなくてよかった。
・撮影に行ったときに小学校の校長先生がたくさんお話してくださって、天白区への思い入れに感動した。
・名古屋といっても意外と田舎だったんだなと思った。自然豊かなところを開発して、今の街ができたことがわかった。
・開発されたところとそうでないところがあり、手つかずで取り残されている部分もある。そういったところに今後目を向ける必要があると感じた。

・自分の出身の場所も昔はどうだったのかなとか思った。
・いつの間にか天白区に詳しくなっていて、卒業する前にこんな経験ができてよかった。

学生一人ひとりが天白区について文献を用いて細かく調べ、過去の文献で歴史をたどり、実際に地域に足を運び、地域の実情に触れた。地域を知る人への取材や地元施設へのインタビューなどの探究活動を行い、何をどう伝えるべきか考えコンテンツとして形にし、地域の可能性や課題について知った。

学生たちは制作過程を通じて、適切な情報収集の方法や活用の仕方について学んだ。近年、何か調べ物をしたいときには、まずインターネット検索を足掛かりにする学生が多い。しかし、当事者しか知らないこと、人と会って初めて得られる情報があることを身をもって経験できたことは意義深い。そして、制作活動に取り組む中で、コンテンツを客観視し、今自分がしていることは何のために行い何につながるのか、筋道をたてて考える論理的思考の重要性を知った。また、コンテンツを広く社会に公開するためには、それを見る・手にとる人が納得するような内容を目指さなければならない。ゼミの課題物という甘えを取り払い、自律的判断をし、貪欲に完成度を高める努力をすることが大切であることに気付いた。さらに、社会とのかかわりの中で、自らの経験をもとに地域社会のあり方に想像力を膨らませ課題発見につなげた。天白区が歴史と文化を大切にしながら時代に合わせて大きく変化していることを知り、区の成長と共にそこで暮らす人々の生き方に触れたことは、自分自身の現在の生活や今までの道のり、そして今後について考えるきっかけになり得たであろう。

４．まとめ

４－１．地域を写真で切り取る―街の記憶を地域アーカイブに―

天白区の担当者の方から、住民の方から提供された古い写真に、学生たちの活動により新しい写真が重なり、区にとって非常に貴重な資料になったとのお褒めの言葉をいただいた。

過去に写真でとらえられた場所の現在の姿を明らかにする活動として2013年から仙台のメディアテークがおこなっている「どこコレ？」[6]がある。「どこコレ？」は昔撮影され、その場所が特定できない写真を、地元の人ならではの経験と知恵によって確定していく展示イベントで、今までに17回開催されている。市民から主に昭和時代の写真提供を受け保存活動を行っていく中で、場所や年代がわからなければ資料として活かすことができない写真を展示公開し、市民の情報により確定する「地域の記憶発掘装置」として機能しているという。

「くらべる天白」では、学生たちがふるさとの街を巡り、過去と現在の天白区の在りようを形にした。今後はこの写真集をきっかけとして、天白区においても、地域住民が参加して街の記憶を分かち合い、記録し、蓄積する「地域アーカイブ」の構築につなげていきたい。さらに、活動を通じて年代を超えた人々がかかわりあうことで地域コミュニティの活性化が期待される。地域の特色や個性がより明確になり、地域の独自性を大切にしていく地域のアイデンティティの育成も期待される。

４－２．おわりに

２年にわたり写真集の制作に取り組む中で、新型コロナウィルス感染拡大の影響で大学が休校になり、その後授業が再開してもオンライン授業のみという状況が続き、制作活動が半年近くストップした。ゼミ担当教員として、学生たちが一度やり始めたものをなんとか完成までこぎつけてやりたいという思いと、この状況なのだから途中で終わっても仕方ないかなという思いが交錯しながら見守っていた。しかし、何度も投げ出したくなるこの状況でも学生たちは決してあきらめず最後まで最善を尽くして写真集を完成させた。彼らの頑張りに敬意を示したい。

註

1　2018年度は天白ご当地動画プロジェクト、2019年度は天白カルタの制作に取り組んだ。

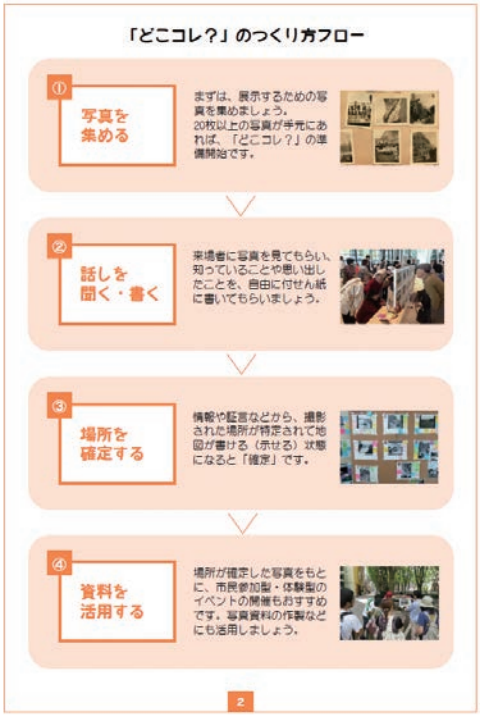
2　本学の所在地は名古屋市天白区である。

3　株式会社DEAL 「真似したい自治体PR動画15選！メリットや注意点、費用を解説」
（https://deal-always.com/local-government-pr-video　2021年11月20日閲覧）

4　本学と名古屋市天白区は2015年12月より包括的な連携・協力に関する協定を締結している。

5　天白区ホームページ 「天白区写真パネル」をお貸しします！
（https://www.city.nagoya.jp/tempaku/page/0000069282.html　2021年11月16日閲覧）

6　「どこコレ？」 NPO法人20世紀アーカイブ仙台，せんだいメディアテーク
（https://www.smt.jp/projects/doko/　2021年11月20日閲覧）
NPO法人20世紀アーカイブ仙台とせんだいメディアテークの協働事業として2013年に第1回を開催して以来、世代交流を通して資料が特定されていくユニークな手法から、全国で催されるようになった。



「どこコレ？」サイトより
（https://www.smt.jp/projects/doko/5a76c9c70844443c9e8882abc5a55887a4a33d25.pdf　2021年11月20日閲覧）